



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(2)

【概要】

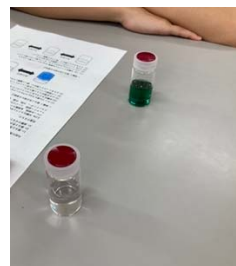
令和 6 年 6 月 21 日(金)に、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」にて理工学部 長田 聡史 教授と先進健康科学研究科（理工系）の大学院生らが本年度 2 回目の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、実験を通した理科への興味をきっかけに子供たちの就学意欲を芽生えさせたいという目的で行なっています。大学が不登校支援機関に対して行う理科実験教室は全国でも数少ない活動で、平成 17 年に当時の工学系研究科 児玉 浩明 教授（現佐賀大学長）が始めてから現在まで継続して今年で 20 年目であり、これまでに数多くの大学生、大学院生がボランティアとして参加してきています。

令和 6 年度第 2 回は 6 月 21 日(金)に、理工学部化学部門 長田 聡史 教授とともに先進健康科学研究科（理工系）の大学院生と理工学理工学科生命化学コースの学部生が、「これで君も魔法使い!? 色が変わるカメレオン溶液」と題して行いました。

実験では、振ると色が変わる液体や、振動反応として知られる周期的に色に変化していく溶液反応を子どもたちに作製、観察してもらいました。振ると色が変わる液体では、無色と青色に変わる液が何度も繰り返し行くと微妙に色調が変化していく様子を報告してくれました。熱心に観察していた子が「ほかの色ではできないんですか?」「いつまで続きますか?」と、とても興味をもってくれたことに対して、楽しんでもらおうと準備した大学院生たちも喜んでいました。異なる色素を使った実験では、その期待に応えることができ、より派手に赤や緑に変わる様子を見せることができました。最後に行った振動反応は、あまりうまく振動が観察できませんでしたが、心拍、睡眠と関連づけて体内で周期的に起こる現象について考えてもらいました。



「理科実験教室」の様子